

第9回 作業療法ジャーナル研究助成・研究結果報告

「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」研究結果報告



塩津 裕康氏
(関西福祉科学大学, 作業療法士)

食事領域の作業療法発展に向けて

本研究は、第9回作業療法ジャーナル研究助成により実施することができました。まずは研究助成していただいた三輪書店様、そして本研究にご協力していただいたすべての方に感謝申し上げます。

本研究のテーマは、「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」でした。その内容は、選定した食事遂行技能の評価項目を、OTを対象にアンケート調査を実施し、項目妥当性を検討するものでした。ここから得られた成果は、第50回日本作業療法学会において発表させていただきました。学会発表ではさまざまなディスカッションをすることができ、そこからさらに改良する機会となりました。

そして改良した評価法は、筆者がまず臨床で使用し、その評価に基づいた介入まで実施しました。研究開始当初から診断的評価ではなく、作業療法リーディングをサポートできる評価法を目指しており、実施した事例の食事遂行の質を向上させることができました。

この実践を基に、日本作業療法士協会が主催

している専門作業療法士（摂食嚥下）の研修会で一部をお伝えさせていただきました。そこでは、取り組みを応援する声も頂戴することができ、このような経験はこの研究助成があったからこそだと思っております。

今後は、多くのOTの方に使用していただけるように検証を重ねていく予定です。また、どのOTが使用しても妥当な介入方法に結び付けられるようにも工夫していきたいと考えております。

最後に、食事は作業の領域に含まれる活動です。医学をはじめ、さまざまな観点からも人にとって重要な活動だと考えられます。OTだからこそできることもあると考えますし、それを必要とする人はたくさんいると考えます。本研究そして今後の研究が、食事に対する作業療法の発展に少しでも貢献できればと思っております。クライアントのため、そして作業療法のためにも引き続き研究を続けていきたいと考えていますので、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。